

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300534
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム かたらい
訪問調査日	平成19年7月21日
評価確定日	平成19年8月20日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 0 3 0 0 5 3 4
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム かたらい
所在地	鹿屋市笠之原町1321番地1 (電 話) 0994-43-2195

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 7月 21日

【情報提供票より】(平成 19年 7月 5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 13年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物構造	平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4)利用者の概要(7月 5日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低 74歳	最高 101歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	長崎内科 あさい歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内中心部の幹線道路沿いに位置し、交通の便の良い場所に母体医療機関及びデイサービスに隣接して建てられたホームである。長年、地域の医療を担ってきた法人が時代のニーズに対応してホームを設立し、母体医療機関との連携による定期的な受診による健康管理が実施されるなど、医療面での充実したサポートのもと、住みなれた地域での安心した暮らしの継続が可能となっている。関連の他グループホームと連携しながら、日々、ケアの充実やサービスの向上に努めている。また、万が一の災害に対処すべく、毎月入居者とともに避難訓練を実施していることもこのホームの特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の明示については、重要事項説明書の表紙に記載し、契約の際説明している。鍵をかけないケアの実践については、職員が玄関に鍵をかけることへの弊害を理解し、できるだけ見守りを行い鍵をかけないように取り組んでいる。また、家族会の際に状況等を説明し、同意を得るなどして、安全面に配慮した上で鍵をかけずに過ごせる工夫を重ねている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を自らの仕事の振り返りの機会としてとらえ、職員全員で取り組んでいる。発見された問題点についても全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、入居者・ご家族・地域の町内会長・民生委員・市担当者が出席し、ホームの実情や取り組み・外部評価結果を報告するとともに、出席者から率直な意見を受け、改善に向けた取り組みを討議している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談・苦情対応窓口の設置や家族会の開催、国保連など外部の相談・苦情窓口の案内等に加え、入居者の外出・外泊の際の様子を記入していただく「外出状況」に、ご家族からのご意見、ご要望を記入できるような欄を設けるなど工夫している。出された意見・要望については、管理者を中心に職員全員で話し合い運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 認知症の症状の進行等により地域の行事への参加は少なくなってきたが、近所の方がお茶飲みに来られたり、焼肉等ホームの行事に地元の方々を招待するなど交流を図っている。運営推進会議の際、地域の行事や活動の情報を得て連携を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの気持ちを尊重し、不安になった時には寄り添いながら共に生活して行くことを大切に、独自の理念を創り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有スペースに理念が掲示され、毎朝職員と入居者が一緒に理念を唱和している。特に、理念の根幹である「入居者の気持ちの尊重」について、日常のケアにおいて守られているかどうか振り返りを行うなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	認知症の症状の進行等により地域の行事への参加は少なくなってきたが、近所の方がお茶飲みに来られたり、焼肉等ホームの行事に地元の方々を招待するなど交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を自らの仕事の振り返りの機会としてとらえ、職員全員で取り組んでいる。発見された問題点についても全員で話し合い、改善計画を立てて実践につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が定期的開催され、ホームの実情や評価への取り組み状況等が報告されている。出席者から老人会への参加が提案されるなど、色々な意見が出されてホームのサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、市の担当者で行き来する機会が十分ではない。	○	地域密着型サービスの担い手として、発生する問題解決に向け市担当者と協議しながら共に取り組んでいくことが必要である。積極的に情報提供を行うためにも、日頃から行き来する機会をつくり連携を図っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動等について、ご家族の面会時や家族会において口頭で伝えたり、「かたらいだより」により報告している。また、金銭管理の状況についても出納帳を明示し、確認のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情対応窓口の設置や家族会の開催、国保連など外部の相談・苦情窓口の案内等に加え、入居者の外出・外泊の際の様子を記入していただく「外出状況」に、ご家族からのご意見、ご要望を記入できるような欄を設けるなど工夫されている。出された意見・要望については、管理者を中心に職員全員で話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が馴染みの職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力している。やむを得ず職員が代わる場合には、後任の職員を早めに入職させて引継期間を十分にとり、法人内の異動の場合、異動した職員がたまたまホームを訪れるなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム独自の勉強会を毎月実施したり、母体医療機関の勉強会に交代で参加しているが、職員を段階に応じて育成するための計画的な取り組みは十分とは言えない。	○	職員の経験や習熟度に応じて、段階的に力をつけて行けるように、ホームとして必要な研修会への参加や勉強会を計画的に実施することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホームとは、2ヶ月に1回管理者同士の会議を開き、情報交換や問題点について相談し合っている。また、地区グループホーム連絡協議会による講演会や職員研修等に参加して、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームを見学していただき、本人やご家族が納得していただいた上で安心して入居していただくよう配慮している。また、入居当初は、ご家族になるべく頻繁に面会に来ていただくようお願いするなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である入居者の知恵(料理や地域の風習、習慣)を借りながら、職員と一緒に料理を作り出来栄を喜び合うなど、互いに支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者やご家族に生活歴(職業や生活習慣等)を尋ね、それぞれの思いや暮らし方の希望を把握した上で、本人本位の生活が継続できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者やご家族からそれぞれの思いや暮らし方の希望を聞くとともに、日頃ケアしている職員の意見を参考にして、入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、入居者の状態変化などは毎月記録されており、定期的な見直しは6ヶ月ごとに行っている。計画途中で病状の変化等が見られた場合には、本人やご家族及び職員と話し合い、必要に応じて現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居前、併設のデイサービスを利用していた方が、馴染みの利用者や職員と一緒に送迎に同行したり、医療連携体制を活かした定期的な受診や、医療処置を受けながらのホームでの生活の継続支援などを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が希望するかかりつけ医を利用できるように、定期的な外来受診が支援されている。また、その他の医療機関(眼科・皮膚科・歯科等)についても、ご家族と相談の上、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居の段階から本人やご家族に説明している。また、入居者の状態の変化に応じ、本人やご家族の希望を聞き、かかりつけ医を含めて繰り返し話し合い、その方針を管理者をはじめ全職員で共有している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴の介助において羞恥心への配慮を徹底したり、誇りや尊厳を損ねないような言葉遣いを心がけている。個人情報の取り扱いに関しては、入居の際同意をいただいております。ご家族の閲覧の可能性がある記録類には、他の入居者名を記入しないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、職員の都合でなく入居者本人のペースを最優先するよう努めている。毎朝、一日をどのように過ごしたいかを入居者に聞き、ミーティングで情報を共有した上でそれぞれの意向に沿った生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎朝、その日の献立の希望を入居者に聞き希望にそったメニューにしている。食事の準備や後片付けについてもできる限り入居者と職員と一緒にいき、毎日の食事が楽しいものとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望により午後からの入浴となっている。また、入居者によっては併設するデイサービスの広い浴槽での入浴を希望して楽しむ方もおられる。入浴が出来ない場合も、足浴やシャワー浴など臨機応変に対応して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所仕事や野菜作りの好きな方、歌やドライブが好きな方等、それぞれに合った役割や楽しみごとのある生活となるような場面作りや働きかけの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夕方は毎日夕涼みを楽しんだり、畑の野菜の収穫、洗濯物干しや買い物、散歩、墓参りなど、それぞれの希望にそった外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、基本的には見守りにより鍵をかけないケアに取り組んでいる。しかし、交通量の多い幹線道路に面しており、外出傾向の強い方が入居された際など、状態が安定するまで危険防止の観点からご家族の同意を得て一時的に玄関に鍵をかけることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いによる避難・消火訓練の他、毎月職員会実施の際、当日の夜勤担当者を中心とした避難訓練を実施している。しかし、地域の人々の協力を得られるような具体的な働きかけは行っていない。	○	母体医療機関に併設したホームであり緊急の際の協力も得られるが、特に夜間に災害が発生した場合など、職員だけの避難誘導には限界がある。いざという時に地域の人々の協力が得られるように、日頃からの働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとに食事及び水分摂取量が記録されている。また、栄養バランスに関しては母体医療機関の管理栄養士に定期的に相談し、入居者の疾病に対する食事療法などのアドバイスを得ながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の身体状況に応じた共用生活空間となっており、ソファに気軽に座れるように配慮している。フロアの飾り付けは生活感や季節感のあるものを取り入れており、ホールや居室カーテン・ブラインドは、その日の天候や温度にも気を配り調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者本人やご家族の意向を確認しながら、本人の好きな写真や飾り物をするなど、居心地よく過ごせるように職員と共に居室の環境づくりを行っている。		